

進捗状況の概要 ※得られたアウトカムを含む構想の実現の観点から記載すること【1ページ】

世界を牽引し、世界に貢献し続けるWASEDA

グローバルリーダーの育成

独創的研究の推進

インパクト

アウトカム

アウトプット・アクティビティ

地球規模の課題の解決と未来を創造する研究・教育システムの構築

- (1)モデル拠点から全学改革への展開
- (2)世界の大学とのネットワークによる教育・研究者育成システム構築

分野別QSランキングの向上

- ・50位以内1分野→5分野
- ・100位以内3分野→10分野
- ・150位以内14分野→20分野

モデル拠点による先行的な改革

- ・ジョイントスーパービジョンの開発・構築
- ・外国人教員によるQE・学位審査の実施
- ・全学改革の牽引役

国際水準の教育提供

- ・海外連携大学との多彩な国際共同研究指導(コチュテル、JSP、DD)等を整備し、大学院生に国際水準の教育を提供

●モデル拠点による先導的取組み

- ・JA教員の全学に先駆けた雇用
- ・新たな国際共同指導プログラム構築
- ・新たな英語学位プログラム構築 他

●国際共同指導プログラムの新設・拡充

- ・ダブルディグリー(DD)：17件
- ・コチュテル：4件
- ・ジョイントスーパービジョン(JSP)：6件
- ・海外大学との複合学位：1件

●国際水準の教授法習得と授業改善

- ・ワシントン大学、クィーンズランド大学等との連携によるFD研修
- ・ワシントン大学派遣者数：延べ68人

●世界屈指の教育基盤拡充

- ・英語でアカデミックライティングとティイカッション力を学ぶ少人数科目「AWADE」新設
- ・edXによる国際配信(計9講座)
- ・延べ学習者数20万人超(R2年度時点)
- ・Waseda Moodleの整備

教育・研究における徹底的な国際化の推進

- (3)国際的インターフェースを持つ教育システムの構築
- (4)世界トップレベルの学生の獲得

国際学界でのリーダーシップの発揮

- ・世界政治学会会長
- ・IEEE Computer Society会長
- ・IEEE 会長

卒・修了者の国際的な活躍

- ・QS Graduate Employability Rankings 2020 (世界34位、国内2位)

学生の国際流動性の拡大

- ・受入留学生通年8,350人
- ・派遣留学生通年4,580人 (うち単位取得を伴う日本人学生2,912人)

●英語学位コースの増設・拡充

- ・6学部11研究科→7学部15研究科 募集人員(全学部計)
- ・H25年度：325人→R2年度：465人

●多様な入試制度の導入

- ・国際バカロレア(IB)の活用による志願者数
- ・H26年度：191人→R元年度：463人

●海外ネットワークの拡充

- ・大学間協定校の拡大
- ・H26年度：79か国422校 →R元年度：94か国868校

●国際研究体制の確立・拡充

- ・国内外有力大学(オックスフォード大学、東京大学等)との包括協定の締結
- ・多様な民間企業等との連携体制構築

●教育の国際的知名度の向上

- ・ビジネススクールの国際認証獲得(EQUIS、AACSBのダブル取得)

教員の採用システムと大学運営のガバナンスを抜本的に改革

- (5)世界トップレベルの教員の獲得
- (6)大学改革の徹底的な実行

トップレベルの教員の獲得

- ・ヨルビア大学、シカゴ州立大学、イディンバラ大学、オーストラリア国立大学等
- ・若手教員積極採用(教員年齢若返り)

大学運営財源の多角化

- ・寄付金37億円、カタルチエ7億円、頂新国際集団(康师傅控股)9.8億円
- ・新研究棟による産学連携機能の強化

国際的なレピュテーションの向上

- ・世界的な学長会議でのプレゼンス(University Leaders Dialogue、APRU、U21等)
- ・トップレベルの国際機関とのイベント共催

●外国人教員等の招聘・獲得

- ・JA教員、訪問教員の雇用・招聘
- ・JA：制度新設後、延べ44人
- ・JA・訪問教員：R元年度103人
- ・テニュアトラック制度の全学的改編
- ・国際公募による教員採用方式の浸透

●戦略的人事枠による教員採用改革

- ・学部・研究科に75人の措置を決定

●理事会の多様なメンバー構成

- ・海外大学の現職教授の理事
- ・グローバル企業トップ経験者の理事
- ・女性事務職員の常任理事

●国際ファンドレイジングと資産運用

- ・戦略的国際ファンドレイジングの導入
- ・Waseda Endowmentの導入
- ・WASEDAサポーターズ倶楽部寄付

Waseda Vision 150 推進本部 (本部長：総長)

Waseda Vision 150拡大推進会議 (SGU拠点拡大推進会議)

モデル拠点を改革の中核として位置づけ、全学改革を推進

- ・7モデル拠点をトップダウンで選定し集中的にリソース投下、**学内改革を先導しつつ全学波及**させる
- ・総長のもとでSGU事業のPDCAサイクルを適切に管理・実行し、**確実に改革を実現**する

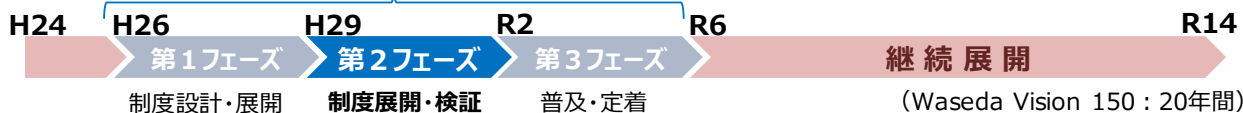
スーパーグローバル大学創成支援
「Waseda Ocean 構想」

理念合致
＝

早稲田大学 中長期計画
「Waseda Vision 150」

内在化しつつ
円滑に自走化

SGU事業期間 (スーパーグローバル大学創成支援の10年間でWaseda Vision 150の改革を加速)



特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

本構想では、国際的競争力を持つ7つのモデル拠点をトップダウンにて選定し、先行的かつ戦略的な集中投資を行い、各研究分野における国際的なプレゼンス向上を推進している。モデル拠点による先行的な改革実行が成果を上げ、QS 分野別大学ランキングの向上や国際共同指導プログラム等による国際水準の教育の提供、国際的なレピュテーションの向上、教員・学生の国際流動性の拡大等、顕著なアウトカムが得られている。今後は、モデル拠点による先行実施のフェーズから学術院等への「普及・定着フェーズ」へと移行し、中長期アウトカムの更なる実現に向けて、総長のリーダーシップのもと、不断の改革を実行していく。

◆教育・研究改革

①国際共同学位プログラムの拡充

7モデル拠点による先行的な改革実行と全学改革への展開により、ジョイントディグリー（JD）の実現を視野に入れた海外連携大学との国際共同指導プログラムを着実に拡充し、国際水準の教育を提供している（協定数：ダブルディグリー（DD）17件、コチュテル4件、ジョイントスーパービジョン（JSP）6件）。

②英語学位プログラム等の拡充

英語学位プログラムを6学部11研究科から7学部15研究科に拡充し、国際レベルでの優秀な学生の確保ならびに財政支援期間終了後に向けた学術院への定着を着実に推進している。

◆国際化改革

③優秀な教員等の受入促進

ジョイントアポイントメント（JA）教員や訪問教員等の多様な雇用制度やインセンティブ等を活用し、海外トップクラスの教員103人（令和元年度）を受け入れ、教員の国際流動性を高め、国際共同指導による教育の質向上を図った。

④受入留学生と留学経験者の拡大

受入留学生は通年8,350人、派遣留学生は通年4,580人（令和元年度）に上り、受入・派遣留学生数は国内トップレベルを維持し、学生の国際流動性を拡大している。

⑤ビジネススクールにおける国際認証の取得

経営管理研究科（ビジネススクール）では、国際認証 AACSB（The Association to Advance Collegiate Schools of Business）と EQUIS（The European Quality Improvement System）を取得した。マネジメント教育に係る主要な国際機関から世界最高水準の品質であると評価され、国際的なレピュテーションの向上に寄与した。

◆ガバナンス改革

⑥大学運営財源の多角化

新研究棟121号館（令和2年竣工：地上6階地下2階）の始動により、最先端の研究の実践と産学連携を促進し、外部資金受入額増による研究事業の自立的な推進体制の構築を目指している。

寄付金は「WASEDA サポーターズ倶楽部」による約7.6億円等、計約37億円を受け入れた。さらに、大口の資金獲得として戦略的国際ファンドレイジングによるカタールチェア協定に基づく受託事業約7億円の獲得や国際文学館新設費約12億円提供の確約を得た。

新たな資金運用の仕組み「Waseda Endowment」により、一部の資金をこれまでよりも積極的かつ長期的に運用し、強固な財政基盤を構築している。

⑦「戦略的教員人事枠」の活用

総長主導の下、Waseda Vision 150 に掲げる理念とその目標達成に寄与する戦略的教員増計画を策定し、大学本部が増員枠の採用方針（ガバナンス改革、国際性、多様性、研究力、外部資金獲得等に資する人事）を示した上で、全学から学術院の自主的な改革案を募り競争的に採択し、教員増人事枠に対して75人の措置を決定した。本計画の戦略的な活用を起爆剤として、本事業の自走化はもとより大学全体の徹底した国際化や大学改革を断行している。

◆世界ランキング

⑧QS 分野別大学ランキングの向上

最新の QS 分野別大学ランキングでは、世界100位以内が3分野から10分野へと大きく飛躍した。「現代語学」「政治学」「スポーツ関連」が50位以内の高評価を得るなど、モデル拠点の先行的かつ積極的な取組が外部による評価に着実に結びついている。目標である18分野100位以内のランクインに向けて分野拡大支援策も講じ、モデル拠点に限らず全学的に研究・教育力向上を目指すべく資金投下も行っている。

QS Graduate Employability Rankings 2020 では、世界34位、国内2位と非常に高い評価を得た。本学のグローバルリーダー育成の教育改革が、企業との連携や卒業生の活躍を通して客観的に評価されている結果の一つである。